

伊勢市観光振興基本計画推進委員会 令和元年度検証結果の書面決議結果

※新型コロナウイルス感染症拡大を防止する観点から、令和元年度は検証部会会議を開催しないこととし、書面により、検証結果等の議決を行った。

書面決議実施期間：令和2年3月19日（木）～27日（金）

書面決議実施委員：山本、中村、三浦、竹内、音羽、濱千代、前田、高橋（敬称略）

書面決議結果：

（1）部会長に山本委員（事務局案）を選任すること

【同意 8名 ・ 不同意 0名】

（2）伊勢市観光振興基本計画 令和元年度検証結果（案）について

【同意 8名 ・ 不同意 0名】

（3）検証結果に関する意見

<検証の各項目>

- ・ 神宮参拝者数の増加、参拝を目的とする旅行の増加が見られる一方で、立ち寄り場所の「内宮」、「外宮」の数値が減少している点に少し疑問が残る。
- ・ 観光案内所外国人案内件数の減少について、伊勢志摩サミット以降に神宮参拝者数が微減傾向にあることも要因の一つであると考える。
- ・ 今後、インバウンドの観光客を積極的に取り入れる施策をもっと考える必要がある。
- ・ 外宮参道通行量について、調査日が令和2年3月上旬で新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けていることから、外宮参拝者数の推移や前年の外宮参道通行量も参考にすべきと考える。
- ・ 満足度平均点が宿泊施設以外のすべての項目で前年より低下しているのが気にかかる。観光客が満足していないということは、まちとして観光客を受け入れる基盤が整備されていない証ではないか。宿泊施設以外の平均点の低い項目の具体的な部分を洗い出し、対策を講じなければ、満足度アップは望めない。
- ・ 総合満足度が下降傾向にある点が懸念される。移動・交通手段が極端に下降している点は、働き方改革によるタクシーの便数減少が影響しているのではないか。

<その他>

- ・ 前年比で検証を行うことについて、改元と新型コロナウイルス感染症の影響によって数値に変化があるため、数値だけの評価にとらわれず、課題を抽出する必要があると考える。
- ・ 前年比のみでの観光政策を考えるとともに、長期的な観光振興基本計画も必要な時代になっている。5年後の2025年には次回遷宮の山口祭が始まることから、連続性のある長期計画に取りかかる時期ではないかと考える。

- ・新型コロナウイルス感染症の広がりにより、観光危機管理計画の必要性、偏った計画ではなく、いかなる場合でも生き残っていける計画を考える重要性を強く感じる。「三つの密」と言われる場所は、観光地には常に発生する可能性がある。従来、その場所は「にぎわい」として良い評価とされてきたが、人が集まることだけでは評価されない、生き残れない現状をしっかりと受け止める必要がある。対策と対応をしっかりと準備し、様々な危機に対応できる観光地を醸成することが大切であるとする。観光活性化と危機管理を両輪とし、観光地としてのレベルアップが急がれる。

⇒「伊勢市観光振興基本計画 令和元年度検証結果」については、上記（２）の議決結果に対する部会長の了解を以って、伊勢市観光振興基本計画推進委員会規則第 3 条第 6 項の規定により、伊勢市観光振興基本計画推進委員会としての議決となった。

以上